

〔看護職 キャリア段位〕

職位	職務基準	技術	知識
看護クリエイター	高度な看護技術が出来る。 高度なマネジメント業務全般。 他種職との連携業務。	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	提供した看護実践について質的・量的に評価し、自他共にフィードバックできる。 ケア提供時専門性における根拠を追求し、他スタッフモデルとなることができる。
看護職1級	高度な看護実践が出来る。 看護技術指導。	論理的かつ実践的知識を統合した看護実践を行い、所属を超えてリーダーシップを発揮できる。	患者家族へ看護実践効果を評価できる。 急変時リーダーシップがとれる。
看護職2級	質の高い看護業務と困難な利用者への対応。 マネジメント業務全般。家族対応。 OJT業務。	根拠のある看護実践に加え、組織的な役割が遂行できる。	看護実践妥当性を評価し、看護計画修正ができる。 カンファレンスで積極的に自分意見を言うことができる。 行った看護実践を正確に記録できる。
看護職3級	一般看護業務。 マニュアルに基づく業務全般。	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。	解決目標達成度を患者・家族に確認し、評価修正できる。 カンファレンスで必要な情報を提供することができる。 助言を受けながら、行った看護実践記録ができる。
看護職4級	看護補助業務。	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。	指導を受けながら、看護計画評価ができる。 カンファレンスで自分意見を言うことができる。 看護過程に沿った記録ができる。